

“クボタショック”から19年

アスベスト被害の 救済と根絶をめざす

尼崎集会に参加しましょう!

日時：6月29日（土）午後1時～4時

場所：尼崎市中小企業センター 1Fホール

阪神尼崎駅北東すぐ 電話 06-6488-9501

参加自由
無料

19年前の2005年6月29日、30日—クボタは79名に及ぶ自社・関連企業アスベスト被害の死亡労働者数を明らかにし、また、30日には今は亡き3人の患者が、周辺住民被害者としてクボタから見舞金を受取ったことを、患者と家族の会や支援団体と共に明らかにしました。（公害としてのアスベスト被害）

このクボタショックによって、まさに関心の遠のいていた日本のアスベスト被害の実態が一気に人々の目にさらされることになりました。

- ◎ 尼崎市アスベスト検診について
 - ◎ クボタ周辺被害の現状と石綿救済法
 - ◎ 患者・家族、遺族からの報告（旧神崎工場、建設現場、生活・・・）
 - ◎ **特別報告 1 「中皮腫とがん免疫チェックポイント阻害剤」**
藤本 伸一 医師（岡山労災病院・腫瘍内科）
 - ◎ **特別報告 2 「市民が建物解体の現場を通る時」**
井部 正之さん（ジャーナリスト 石綿問題など）
- ★音楽（「空をゆくつばめ」）と落語（壽 文寿 師匠）の時間も



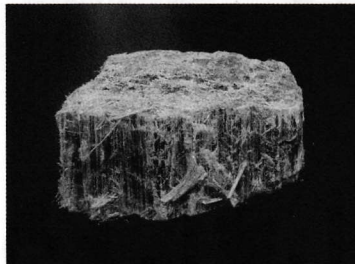
写真展は
6月15日（土）～21日（金）
小田南生涯学習プラザ
（JR尼崎南線沿い5分）
AM9時～PM8時

主催：アスベスト患者と家族の会 連絡会 尼崎・東海支部／尼崎労働者安全衛生センター
後援：尼崎市

お問い合わせは…TEL・FAX06-4950-6653 尼崎安全センターまで
メール a4p8bv@bma.biglobe.ne.jp

アスベスト全面禁止

平成 18 年 9 月 1 日より、石綿および石綿をその重量の 0.1% を超えて含有する
全ての物の製造、輸入、譲渡、提供、使用が禁止されています。
 禁止が猶予されていた 3 製品が平成 23 年 3 月 1 日以降、全面禁止になります（裏面参照）。



石綿の種類

石綿とは、天然に産出する繊維状鉱物で、
 下記の種類があります。

- 蛇紋石系石綿
 - クリソタイル（白石綿）
 - クロシドライト（青石綿）
 - アモサイト（茶石綿）
- 角せん石系石綿
 - アンソフィライト
 - トレモライト
 - アクチノライト

（厚労省作成チラシより）

クボタへの周辺被害請求数

（2024年6月15日 現在）

年	請求	累計数(人)	前年増(人)
2005~06年	114		—
2006~07年	156		+42
2007~08年	178		+22
2008~09年	201		+23
2009~10年	221		+20
2010~11年	242		+21
2011~12年	257		+15
2012~13年	270		+13
2013~14年	286		+16
2014~15年	298		+12
2015~16年	312		+14
2016~17年	325		+13
2017~18年	339		+14
2018~19年	355		+16
2019~20年	369		+14
2020~21年	386		+17
2021~22年	398		+12
2022~23年	408		+10
2023~24年		集計中	

（患者と家族の会 連絡会）

昭和47年10月1日～平成16年9月30日の間に
建設現場で石綿にばく露し、
石綿関連の疾病を発症された
労働者、一人親方やそのご遺族の皆様へ
 ～建設アスベスト給付金制度が創設されました～
 一定の要件を満たす場合には、給付金等が支給されます。

中小事業主も対象になります。労災と救済法「特別遺族給付金」
 認定済みの方は、ひとまず「労災支給決定等情報提供サービス」
 のご利用を。（厚労省問い合わせ先 0570-006031）
 ※審査の実績は 6,000 件を越している。

平田忠男 前患者と家族の会 会長

石綿(アスベスト)工場の 元労働者やその遺族の方々に対する 和解手続による賠償金の お支払いについて

石綿(アスベスト)工場の元労働者やその遺族の方々が、国に対して
 訴訟を提起し、一定の要件を満たすことが確認された場合には、国は、
 訴訟の中で和解手続を進め、損害賠償金をお支払いします。

（厚労省作成チラシより）



「私たち当事者が声を上げないと、悲惨な公害をなかつたこと
 にされる。風化させないためには私たちが動かなければなら
 ないという思いで活動を続けてきた。私たちが一人ひとりの力
 は弱いが、志を一緒にする皆さんと、これからの若い人たちの
 ためにもアスベストの危険性を訴えていきたい」
 （2021年2月17日死去、77才）

1951年9月生まれの塩見幸治さん
 (元尼崎市議)。アスベストによる中
 皮腫で肺を全摘手術。2017年12月
 没、66才。「この問題は「公害」である
 というように受け止めていけない
 と、基本的な、根本的な解決には結び
 つかない! 生きるとは生活すること
 とその支えなくして療養がで
 きるはずはありません。」(『尼りかん』
 No.54)

アスベストの見本 (市歴史博物館)

クボタショック18年の集会では、副作用
 に苦しんだ患者、集会でサクスを吹いて
 くれた患者の遺族が発言した。(市は環境
 省へ緊急要望を提出しており、松本眞市
 長も出席した)



▲アスベストの環境被害の範囲は
 広い (写真展)

◀アスベスト疾患の治療は前進して
 いる (藤本伸一医師)

★どんなにアスベストの悲惨な被害があっても、それをしっかり記録して伝えていかなければ、被害はなかったことにされてしまうのです。それを許さないために会報『尼りかん』『未来と安心』は、患者・家族、遺族の声や国・自治体、企業とのやりとりを伝えています。★